

CITY



UNIVERSITY

大阪市立大学広報誌



Vol.20
February 2016



CONTENTS

●P1 特集

西澤学長時代の 6年間を振り返って

OCU TOPICS

●P5 Research / 宮田真人教授(理学研究科)・辻岡哲夫准教授(工学研究科)

●P6 Education / 「大阪学—グローバル視野から見る大阪—」を開講

●P7 Researchers / 奥野久美子准教授(文学研究科)
益田晴恵教授(理学研究科)・鶴田大輔教授(医学研究科)

●P8 @Campus

兵庫耐震工学研究センターと包括連携協定を締結
学生国際交流会を開催
大阪市立大学創立135周年記念フォーラムを開催
ほか

●P10 大学サポーターだより

OCU INFORMATION



公立大学法人
大阪市立大学
OSAKA CITY UNIVERSITY



大阪市立大学 副学長

みやの みちお

宮野 道雄



大阪市立大学 学長

にしざわ よしき

西澤 良記



大阪市立大学 副学長

いのうえ とおる

井上 徹

西澤学長時代の6年間を振り返って

平成28年3月、西澤良記学長の6年に渡る任期が終わります。

三つの重点戦略を掲げ、教育・研究・社会貢献やキャンパス整備面においてさまざまな変革を遂げてこられた西澤学長。

宮野副学長、井上副学長と共にこの6年間を振り返っていただきました。

重点三戦略

- ①都市大阪のシンクタンク、「都市科学」分野の教育・研究・社会貢献
- ②専門性の高い社会人の育成
- ③国際力の強化

——重点三戦略を振り返って

西澤 着任当初、「大阪市立大学は何に力を入れるのか」を誰にとっても分かりやすい三つの言葉で表現しようと思い、いろいろ試行錯誤しました。大学は学問をするところなので、本学で学問をする意義や背景を考えたところ、第一に「都市」というキーワードが頭に浮かびました。都市の構造や自然、地形、防災、経済、産業、市民などさまざまな要素を全て含んだ都市の学問ととらえて「都市科学」と名付けました。こうすることで8学部10研究科すべて横断するものになるだろうと考えたわけです。この学問の成果を市民に還元するという意味で、シンクタンク機能の強化を付け加えました。二つ目の「専門性の高い社会人の育成」は、22歳以下の学生だけではなく社会人も共に学び社会に貢献していくというヨーロッパ型を意識

しました。当初は社会人大学院をイメージしていましたが、今は学部の専門教育も含めて、専門性の高い社会人の育成を目指しています。三つ目の「国際力」、これは国際化社会で活躍する人材を育てるためには語学力を駆使したコミュニケーション力が「国際力」の絶対条件と考えて選びました。

宮野 学長が本部長となる国際化戦略本部を設置し、そのもとに国際センターをつくり、具体的な数値目標等の設定と進捗管理を行うため国際化アクションプランを策定しました。留学生数や短期海外プログラム研修の受講者数、大学間学術交流協定数など着実に成果が出てきています。上海リエゾン、バンコク拠点を設置できたことも大きな成果だと思います。

井上 「国際力」強化のためのグローバル教

育、中でも英語教育が核心で、初年次向けの英語の集中プログラム、海外研修など、学長のリーダーシップのもと進めることが出来ました。英語は論文を執筆する上でも非常に大事です。

西澤 単に英語を学んで話すのが重要ではないことはみんな分かっていますが、英語ができないと何も進まないのです。欧米との大きな差はディベート力。意見を闘わせることが教育上大変重要になってきています。ディベート教育はこれからの課題です。

宮野 「都市科学」における都市防災は、東日本大震災がプロジェクト加速の大きなきっかけとなりました。私は防災の専門家としてすぐに現地へ行こうとした際、西澤学長から「大学の代表として現地へ行き、今後の展開を検討するように」との指示があり、岩手県立大学や宮

城大学などを訪問してきました。帰阪後すぐ、全研究科長および法人・大学の事務部長はじめ関連する部署の課長をメンバーとする災害対策支援会議を設置し、被災地への支援策を検討するとともに、学長主導の学術戦略会議の中で、理、工、医、生だけでなく文系も含めた全学的組織として都市防災研究プロジェクトを立ち上げました。それが現在の都市防災教育研究センター発足につながったわけです。西澤学長に背中を押してもらえたのが大きかったと思います。

西澤 「都市科学」の定義付けを考えに考えた結果、理系と文系の垣根を超えた、本学ならではの三つの研究テーマに特に重点を置くことで「都市科学」とはこういうものだと思わせようと考えました。まずは「次世代エネルギー研究」。人工光合成という言葉が今ほどメジャーではなかったときから、理学部の先生たちが熱心に取り組んでいることを以前より知っていました。先進性の高い研究であることから教

員個人レベルの研究ではなく、大学をあげて取り組む研究であると判断しました。次に「健康科学」。もともと医学研究科では1980年頃より疲労科学を研究し、国際的にも大学の研究ブランドになっていましたが、今後は疲労をベースとして、幅広く健康について捉えようと考えました。三つめは「都市防災」。平成23年の東日本大震災を踏まえ、今後の都市を考えるにあたり、防災はものすごく大きい課題になっていく、これは本学の使命だと思いました。この3つを「都市科学」の重点研究とし、大学としてバックアップしていこうと決心したわけです。紆余曲折ありましたが、これらの重点研究においてそれぞれセンターを設置し、研究が前進していることに満足しています。さらなる躍進に期待しています。

井上 「専門性の高い社会人の育成」に関しては、2015年度から開講した文学部の文化人材育成プログラム「大阪文化ガイド+(プラス)講座」も成果の一つだと思います。

——キャンパスや施設整備を振り返って

西澤 さまざまな施設の設置、キャンパスのリニューアルを行ってきましたが、積年の課題であったJR杉本町駅からキャンパス内へのアクセスがスムーズになったことが最も印象に残っています。念願かなって杉本町駅に「東口」が開設され、それにあわせて新しく「杉本門」を設置、そこから南部陽一郎先生からお名前をいただいて新設した「南部ストリート」が続きます。ストリートを抜けると、冬のイルミネーションがすっかり定着した「けやき通り」。ベンチも設置し、きれいに再整備しました。これにより学生たちが安全にスムーズにキャンパスを散歩できるようになりました。電車の車窓から見える杉本キャンパス西側の「さくら通り」も美しく整えられ、さらに大学らしい風景に生まれ変わったように思います。これらのキャンパス整備においては柏木副理事長の尽力が大きかったです。あとは、学生の居場所がもっと増えればいいですね。家にいるより大学にいる方が面白



宮野道雄 副学長



西澤良記 学長



井上 徹 副学長

い、というようなキャンパスが理想です。

宮野 久しぶりにキャンパスを訪れた多くの卒業生が、大変様変わりしたと驚いていますよ。

井上 田中記念館をリニューアルし、ホールや会議室などがより使いやすくなりました。卒業生の皆さんの集いの場らしくなったと思います。

西澤 理系学舎整備事業で建替えられた学舎も目を引きます。見た目もさることながら、複合先端研究拠点と呼ぶにふさわしい、立派な教育研究環境を整えることができました。

——大学改革や新大学の検討について

西澤 新大学は、ただ単に規模が大きくなるというよりも、「グローバルキャンパス」の実現により、より優秀な学生が集まることを期待しています。学生にとっても教員にとっても、優れた教育・研究の環境整備は極めて重要です。そういった意味においても、本学と大阪府立大学が合わされば色々な意味で資源が豊かになるのがメリットです。

宮野 私は、規模が大きくなることによる多様性とゆとりに期待しています。新大学に限らず今の本学もそうですが、分野の多様性を備えた都市型総合大学であることが今後も重要だと思っています。色々な分野のつながりを密にして、新たな分野を育てていくこと、突出した分野を外に向けてアピールすることで、新しい大学を打ち出すことができるのではないのでしょうか。

井上 それぞれの大学の資源を生かして、新しい教育研究、つまり文理融合型というのを模索していく必要があると思います。複数の分野からノーベル賞を受賞するような研究活動が出てくれば良いですね。また、せっかく近くに関西国際空港がありますので、国際的な大学にしていくことも大事だと思います。

——最後に

宮野 「テニュアトラック普及・定着事業」、「女性研究者研究活動支援事業」に加えて「地

(知)の拠点整備事業(大学COC)」など、人材育成等に関連するさまざまな事業を獲得できたのは大きかったと思います。今後も若手人材の育成が大切になってきますので、次の執行部にも継続して人材育成事業に力を入れていってほしいと思います。

井上 前半は研究科から執行部を見ていましたが、いざ自分が副学長になると見える風景が違って、大学全体を見渡すようになりました。大学の動きを前に進めるには、リーダーシップ、ガバナンスが大事であると改めて思っています。

西澤 6年間、重点戦略を中心に据えて多くの課題に挑戦してきました。さまざまな大学改革を学内のコンセンサスを十分に得ながら進めてきたつもりです。大学の構成員の理解と尽力に感謝しています。本学は、今後さらに色々な意味で飛躍していくと思いますが、6年間の取り組みがその礎になってもらえたらと願っております。今後も期待しています。

2010



4月1日
第11代大阪市立大学長に就任



6月1日
創立130周年を迎える



創立130周年記念事業 中之島講座開講
(2011年6月～2012年2月まで4回開催)

2011



6月20日
南部陽一郎先生特別榮譽教授称号授与



7月1日
学生ボランティア派遣出発



9月13日
第1回学長記者懇談会開催

2012



4月5日
学術情報総合センターにラーニングcommons設置



2013



4月10日
さくら通り緑地完成



2014



4月9日
屋上庭園Asteriaオープン



4月10日
新理系学舎竣工・けやき通りオープン・
MedCity21開所



2015



4月22日
新入生向け講義「大阪市大でどう学ぶか」



6月1日
創立135周年を迎える
12月18日記念フォーラムを開催

特集

西澤学長時代の
6年間を振り返って

実績年表
2010～2015



11月8日
学園祭実行委員との懇談会
→以降定期的に学生と懇談



2月11日～2月20日
創立130周年記念
事業の一環として
「生誕80年大阪が生んだ開高健展」開催



3月7日
西澤学長・桐山副学長・宮野副学長
による鼎談



3月24日
学生による東日本大震災の
募金活動(卒業式にて)



9月29日
学生サポートセンターオープン
学生サービス窓口の集約・ワンストップ化を実現



3月15日
住吉区役所と災害発生時における
収容避難所の覚書を締結



6月29日
JR阪和線杉本町駅東口改札の設置(3月11日)に伴い、南部ストリートオープン



1月23日
エコキャンドルナイト開催



6月18日
人工光合成研究センター
開所



7月26日
健康科学イノベーションセンター開所



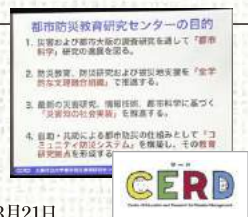
冬の風物詩 市大イルミウォーク



10月31日
サポニワオープン



12月18日
外国特派員プレストア開催



3月21日
都市防災教育研究センター開所



8月6日
田中記念館
リニューアルオープン



9月29日
南部陽一郎特別栄誉教授追悼シンポジウム開催



11月2日
銀杏祭 キングコング西野さんと

RESEARCH

ヒト肺炎マイコプラズマの 接着器官の構造を解明

日本で毎年数万～数十万人が発症している“マイコプラズマ肺炎”は、マイコプラズマ・ニューモニエという小さな細菌によって起こります。この細菌は、菌体の片側に小さな突起、“接着器官”を形成し、接着器官で宿主組織の表面にはりつき、はりついたままに動く“滑走運動”を行います。この滑走運動は、マイコプラズマの感染に必須です。接着器官は、多種類のタンパク質により形成される複雑な装置で、マイコプラズマにしかありません。そのため、構造も接着と運動のメカニズムもあまり明らかに



結果をもとに3Dプリンターで作製したマイコプラズマ・ニューモニエの模型

なっていませんでした。
理学研究科の宮田真人教授らの研究グループは、新たに3種類の構成タンパク質を発見し、過去に見つかったものを含む15種類の構成タンパク質のそれぞれが接着器官のどの部分を形成しているかをナノメートルレベルで明らかにしました。またその結果をもとに、滑走運動メカニズムのメカニズムを提案しました。

これらの成果は生体運動の共通原理への理解につながります。また、耐性菌の蔓延により、抗生剤がマイコプラズマ感染症への第一選択剤ではなくなるかもしれない現代において、マイコプラズマが起こす感染症の次の対策を得るためのヒントになると期待されます。

「マイコプラズマ・ニューモニエの滑走の様子」の参考動画はこちら



<https://www.youtube.com/watch?v=bjsKderHUSE>



宮田真人 教授

研究者 クローズアップ



理学研究科 宮田 真人 教授

宮田教授は、「人間は何でも作りだしてきたけれど、生物だけは何もいないところからは作り出せない、神の領域だ」と生物の神秘に魅了され、高校1年生のときに生物学者を志したそうです。自宅には家庭用冷蔵庫ぐらいの大きな昆虫用飼育ケースがあり、カブトムシの幼虫を130匹も飼っているそうで、成虫になったときのもらい手に毎年苦労されているということです。



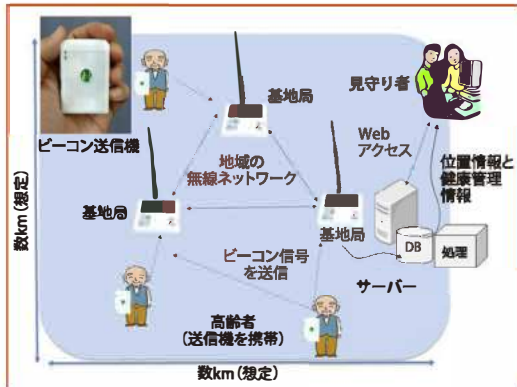
地域自律型 ワイヤレス見守りシステムを開発

～ICTを活用して認知症高齢者の方をサポート～

工学研究科の辻岡哲夫准教授らのグループは、920MHz帯の特定小電力無線を用いた「地域自律型ワイヤレス見守りシステム」を開発しました。平成27年度より介護保険制度が改正され、小中学校の校区単位で見守り活動を行うことが想定されています。特に、自治会や地域NPOが主体となった活動は重要であり、地域で自律的かつ継続的な

見守り活動が行われるためには、経済的で数km四方の範囲の見守りに適したシステムが求められていました。開発したシステムは、ビーコン送信機、無線基地局、サーバ装置で構成されています。高齢者に送信機を携帯してもらい、定期的には送信されるビーコン信号を、地域の各所(利用者のベランダなど)に設置する無線基地局が受信してサーバ装置まで中継し、蓄積されたデータから高齢者の位置や状態をリアルタイムに把握できます。携帯電話網を使わないのでランニングコストが安く、低負担で利用できるという画期的なシステムとなっています。

平成27年12月より、大阪府堺市南区の泉北ニュータウンで社会実証実験を開始しています。利用者のご意見をシステムの改善に反映させる予定であり、今後の本稼働が期待されています。



※本研究はヴァイタル・インフォメーション株式会社との共同研究です。



辻岡哲夫 准教授

研究者 クローズアップ



工学研究科 辻岡 哲夫 准教授

辻岡准教授はカメラ・料理・文房具収集など多彩な趣味を持っています。中でもアマチュア無線は通信を体験的に学べるのでオススメとのことで、今でもコンテスト(交信数を競う競技)にはできる限り参加しているそうです。大学生時代は「ウルティマ」のゲームプログラマーだったという経歴を持ち、「ゲームは遊ぶよりも作ることを楽しんでほしい」というのが、学生へのメッセージです。



「大阪学ーグローバル視野から見る大阪ー」を開講しました!

◆「大阪学」の開講について 副学長 井上 徹



さまざまな場面で国際化が謳われている現在、グローバル人材の育成が大学に求められています。本学ではグローバルな視野から大阪という地域を捉えられるように、という西澤学長の発案により、平成27年度後期より全学共通教育科目の一つとして「大阪学ーグローバル視野から見る大阪ー」を開講しています。

大阪という地域にアイデンティティーを抱きながら世界で活躍できる人材の育成を目指し、「大阪学」では、本学教員だけではなく、国内外

で広く活躍している卒業生や企業人にも授業をご担当いただき、グローバル教育と地域志向教育に力を入れています。

学生には、

- ①全世界に急速に広がりつつあるグローバル化の最先端の状況を知ること。
- ②グローバル化の中での大阪の現状と未来を考えるきっかけとすること。
- ③専門を超えた幅広い知識を身につけること。
- ④在学中だけでなく、卒業後も見据えてどのような職業に就き、いかに生きていくかを考える手がかりとすること。

この4点を意識しながら受講してもらいたいと考えています。

◆「大阪学」授業風景 大学教育研究センター教授 飯吉 弘子

全学共通教育のこの科目には、本学の全8学部から学生が履修登録し、70名前後の学生が毎回出席していました。1~4年生の幅広い学生が、学部や学問分野の違いを超えて、ともに大阪について学ぶために受講していました。最終回の講義を担当し、それまでの講義全体を踏まえて深まった学生の視点を整理して大阪・とりわけこれからのグローバル社会という文脈から大阪を見る際の論点を、受講学生たちと考えていく授業を行う必要があったことから、私自身も初回からすべての授業に参加しました。

受講学生たちは、多様な観点から大阪を見る講義によって、毎回多くの示唆と刺激を受けていたようです。毎授業の最後にコミュニケー

ションカードを書いて提出することとしていましたが、授業を通して新たに気づき考えたことなどがいつも紙面いっぱいに入っていました。紙面に書いたり授業内に質問したりするだけでは足りず、授業後に講師の先生に直接質問しに行く学生もたくさんいました。学生にとって身近で知っているつもりになっていた大阪の、さまざまな可能性や課題を広い視野からじっくり考察し、自らの今後のあり方も考える、良い機会となったのではないかと思います。



第10回目授業風景(藤沢久美講師)

PICK UP!!【大阪学】

第4回『超高齢社会における医療介護複合経営~大阪の挑戦を世界へ~』 講師:生野弘道(社会医療法人 弘道会 理事長)

高齢化率、高齢化の速度がともに世界最高の日本。10年後の日本における高齢化の諸課題に対処すべく、生野先生は医療と介護の複合経営を提案。非営利型の社会医療法人と社会福祉法人が統合し、効率的な複合経営が可能になれば、急性期医療から在宅介護までを同一法人が担い、切れ目のない医療と介護の提供

が実現します。「これらの大阪の挑戦を世界に向けて発信していく、日本は高齢化対策で世界のリーダーになるべきだ!大阪に与えられた課題は、現実を受け止め皆で高齢者を看っていくこと。皆で大阪を成長させていこう!」と、学生たちへ熱いメッセージが送られました。



第9回『一関西系商社の歴史的歩みとグローバル化~』 講師:古川弘成(阪和興業株式会社 代表取締役社長)



政治色の強かった関西系商社(三井物産、三菱商事など)とは異なる出自の関西系商社は、現代の日本のCSR(企業の社会的責任)思想にも通ずる「売り手よし、買い手よし、世間よし」とった『三方よし』精神などの商人哲学を重視し、発展してい

きました。また、「日本の人口を増やすべく、企業にもその環境づくりが求められている。それに加え、グローバルな視野を持ち、人口の多い海外で経済活動を展開していくことが関西系商社にとっても非常に重要な課題」とのお話がありました。

第10回『ダボス会議に見る、世界で活躍する若者たちと社会の未来』 講師:藤沢久美(シンクタンク・ソフィアバンク 代表)

世界の課題を世界各界のリーダーが語り合う『ダボス会議(世界経済フォーラムの年次総会)』に、ヤング・グローバル・リーダーとして参加し、世界を直接見てきたご自身の体験をもとに、長い時間軸で物事を捉え、選別された情報を鵜呑みにせず幅広い視野を持ち、人間を深く見て行動を起こすこと

の大切さについて講義がありました。「ITが日常生活に溶け込んでいる若者世代は、社会で非常に重要な役割を担っている。とにかくやってみること。世界のために自ら動けば何かが始まる」といった藤沢先生の力強い激励の言葉に感化された学生たちは、意欲を燃え立たせていました。



第13回『大阪発、女性の視点のベンチャービジネス~働くママにやさしい社会をめざして』 講師:上田理恵子(株式会社マザーネット 代表取締役)



「働く女性にやさしい社会をつくりたい!」と明確な理念を掲げ、働く母親が本当に困ったときに役立つサービスを届ける会社「マザーネット」を、大阪から全国展開を目指して設立した上田先生。育児で感じた行政の壁、起業に至る苦悩などワーキングママに優しくない社会を実感

した経験をもとにお話をいただきました。「働く女性に寄り添い、それぞれのニーズを受け止め、1件1件にどれだけ心を込めたかを大切に」そう心がけ、マザーネットがなくなる社会の実現を目指す上田先生の志の大きさが、伝えられました。

RESEARCHERS

文学研究科 言語文化学専攻 奥野 久美子 准教授

奥野准教授の専門は国文学、芥川龍之介などの近代文学ですが、ここ十年ほどは、講談本が近代文学に与えた影響について研究しています。芥川といえば今昔物語集などを元に作品を書いたことが有名ですが、芥川や近代作家たちは、今でいう漫画本のような存在であった講談本も利用していたことが分かってきたそうです。

奥野准教授は国文学研究の目的は、文化遺産である文学作品に、今できる最高水準の校訂と注釈を施して後世に伝えること、具体的に言えば、百年、五百年後の日本の高校生にも「羅生門」が読める状態にしておくことだと考えていますが、こうした出典研究は注釈に役立つということです。「源氏

物語」も、何百年にわたり愛読者や学者が注釈を施してきたからこそ、私たちにも読むことができるわけです。

奥野准教授は、国文学者は文化の継承を担う誇りをもって仕事をしている宮大工のようなもの、そして、国文学研究は、千年後の世界でも、美しい日本語によって綴られた文学が読み継がれていくように一という祈りを込めた学問だと語ります。

また、本学初代学長、恒藤恭が芥川の親友だった縁で、芥川が恒藤にあてた手紙百通あまりを含む貴重な資料が、恒藤家から本学恒藤記念室に寄託されており、それらを生かした研究も進めています。



◆アナザーサイド

研究者であり、小学1年生のお子さんの母でもある奥野准教授。日頃は自分の時間はなかなか持てないようですが、たまの息抜きは舞台鑑賞だそうです。宝塚やオペラ、歌舞伎まで、幅広く楽しまれています。昨年、初めてお子さんと一緒に歌舞伎鑑賞をされたそうで、これをきっかけに親子鑑賞の機会を増やしたいと夢をふくらませているとのこと。

理学研究科 生物地球系専攻 益田 晴恵 教授

益田教授の専門は水圏地球化学。地殻表層部の水循環に伴う物質移動、水の流れに伴って起こる自然現象を研究しています。地球をもっとも特徴付ける物質は「水」です。液体の水があるから、現在の地球の姿があります。益田教授は流れる水を対象に、陸地と海洋底での水の役割に興味を持っているそうです。陸地では、国内だけでなく、南アジアを中心に天然由来のヒ素や水銀などの重金属による地下水汚染の研究をしてきました。世界的には、地下水は重要な水資源で、汚染はよりよく生きる権利を阻害する大きな問題です。

海洋底での研究では、海洋地殻内での水の

動きに伴う熱水活動（言わば海底温泉です）や鉱物の形成を研究してきました。海洋地殻内での水の動きは、海底資源形成、地震やマグマの発生機構と深く関係しています。これらの調査のために、潜水艇「しんかい6500」でマリアナ海域の調査や深海掘削船「ちきゅう」に乗船して南海トラフの掘削作業に参加したこともあるとのこと、地球の表面の7割の海の広さと美しさに惹かれているそうです。

現在は大阪府環境審議会温泉部会・部会長として、温泉を掘ることが周囲に与える影響を行政の立場で調査するなど、社会貢献活動にも取り組んでいます。



◆アナザーサイド

益田教授は、科学者だから行ける地球の特別な場所と時間を楽しんできたそうですが、ひどく乗り物酔いする体質のため、特に海洋調査では辛いことも多いそうです。でも、美しく大きな海を見ていると、辛さを忘れて、また乗船してしまうとのこと。熱帯の雨季は暑くて苦しいのですが、だからこそ見られる水の美しさや、現地の人たちとの交流を楽しみにしているそうです。

医学研究科 皮膚病態学 鶴田 大輔 教授

鶴田教授の専門は「自己免疫性水疱症（天疱瘡・類天疱瘡）」。その病態解明と治療法の開発の他に、鶴田教授の研究室では「発毛メカニズムの解明、新規脱毛治療薬の開発」、「眼皮膚白皮症の病態解析と治療に向けた研究」「光線力学療法（PDT）による感染症治療の研究」に取り組んでいます。

「自己免疫性水疱症の病態解明」と「発毛メカニズムの解明」の二つの研究には関連性がないように思えますが、どちらも基底膜と関係があります。皮膚の構造として、表皮があり、その下に真皮があることはよく知られていますが、その二つの間にあるのが基底膜です。鶴田教授はこの基底膜の働きに着目し、皮膚疾患研究を進めています。

難病である自己免疫性水疱症は、基底膜を攻撃する抗体が体内で作られてしまう疾患です。基底膜分子のラミニン-332は発毛を抑制し、ラミニン-511は発毛を促進するため、その二つの分子の制御を研究することが発毛メカニズムの解明につながるわけです。また最近、大麻様の作用を持ちながら人間の体内にもある、幸福感をもたらす内因性カンナビノイドが、毛成長に関係することもわかってきましたので、心の状態にも注目するなど、色々な角度から研究を進めています。

将来、難治性皮膚疾患の解明に貢献できた！と研究室のみんで喜び合う日がくることを目標に、鶴田教授は今日も診断・治療・研究に打ち込んでいます。



◆アナザーサイド

海外での学会や国際協力にも積極的な鶴田教授は外国に行く機会も多いですが、皮膚の専門家だけあり美肌の持ち主です。男性の肌のほうが乾燥しやすいという解説は、最近ネットや新聞等でも大きく取り上げられました。気分転換は音楽で、幼少期はピアノ、中学からはホルンを演奏し、市大生時代は医学部オーケストラに所属。今も家族でセッションを楽しんでいるそうです。

兵庫耐震工学研究センターと包括連携協定を締結

平成28年1月22日(金)、都市防災教育研究センターは、国立研究開発法人防災科学技術研究所 兵庫耐震工学研究センターと相互の連携を強化し、地域の安全と安心に資する地域密着型の防災・減災教育研究拠点形成に参画することを目的とした包括連携協定を締結しました。



森一彦都市防災教育研究センター所長(左)と
梶原浩一兵庫耐震工学研究センター長(右)

学生国際交流会を開催



パーティーを楽しむ参加者たち

平成27年12月17日(木)、杉本キャンパス北食堂で学生国際交流会が開催されました。留学生・日本人学生と教職員が、余興を楽しみながら交流し、豪華景品が当たるビンゴ大会などで大いに盛り上がりました。

教育後援会より寄贈いただいたテントが 第65回銀杏祭で活躍しました

平成27年10月20日(火)、教育後援会より寄贈いただいた集会用6脚テント7台を、第65回銀杏祭(10月31日(土)～11月3日(火)開催)で有効に使わせていただきました。



第65回銀杏祭会場

教育後援会より
寄贈されたテント



大坪良樹さん(工学研究科1年生)が 「太陽の塔に対峙せよ!」アイデアコンペで特別賞を受賞

平成27年11月26日(木)、工学研究科都市系専攻前期博士課程1年生の大坪良樹さんが、公益財団法人岡本太郎記念現代芸術振興財団/岡本太郎記念館主催の「太陽の塔に対峙せよ!」アイデアコンペで特別賞を受賞しました。



受賞作「樹形夢一万博公園牧場化計画」と大坪良樹さん



ボート部が創部125周年を迎えました

平成27年11月15日(日)、ボート部創部125周年(明治23年創部)記念披露祝賀会が開催され、ボート部OB会(紅橋会)より8人乗り(エイト)ボートの手作り『ミニチュアエイト艇』が寄贈されました。



学術情報総合センター1階談話ビジュアルコーナーにて展示中

硬式野球部がI部に昇格!



硬式野球部のみなさん

硬式野球部は、平成27年近畿学生野球連盟秋季リーグ戦(II部)で優勝。入替戦で大阪教育大学に勝利し、2季ぶりにI部リーグへの昇格を果たしました。

CR副専攻「地域実践演習Ⅰ」の受講生が協働で「港まちづくりタイムズ」発行！

創造都市研究科の小長谷一之教授^{こながや}が担当するCR(地域再生)副専攻「地域実践演習Ⅰ」で、受講生が、産学官連携会議「港区CRテーブル(港区・港まちづくり協議会大阪・創造都市研究科小長谷一之研究室)」による築港・天保山エリアを紹介する新聞『港まちづくりタイムズ』の企画に参画、取材を担当し、見どころやお店紹介の記事をまとめ、読売新聞で報道されました。

取材する学生たち



港まちづくりタイムズ創刊号
<http://www.osaka-cu.ac.jp/ja/news/2015/160119>
<http://minatomachi-o.jp/archives/990>
 よりダウンロードできます。

「国際交流アートプロジェクト・モザイクアート制作」を開催！

平成28年1月23日(土)、文学部の「表現・表象文化論演習Ⅱ」の受講生がアーツマネジメント実習の一環として、せいがん日本語学校の生徒さんと共に「国際交流アートプロジェクト・モザイクアート制作」を開催しました。〈世界、地球、つながり、住吉区〉をテーマに、参加者の皆さんで連想されるものを1つのアートにしました。



素材となる写真は当日参加者が撮影



撮影した写真をバランスを見ながら貼りつけていきます。



完成したアートのタイトルは「SUMIYOSHI HEART」

モザイクアート制作動画はこちらから



大阪市立大学創立135周年記念フォーラム 「都市大阪の創生～未来への提言～」を開催しました



平成27年12月18日(金)、大学の創立135周年記念フォーラム「都市大阪の創生～未来への提言～」(共催：日本経済新聞社)を、グランフロント大阪 ナレッジシアターにおいて開催しました。このフォーラムは、大学が135周年を迎えるにあたって、その建学の理念に鑑み都市・大阪とともに発展してきた公立大学として、都市・大阪の未来に向けて新たな視点を提供し、都市の発展に貢献する大学としての使命を明らかにすることを目的に実施したものです。

西澤良記学長のあいさつの後、大学のOBでもあるコマツ相談役の坂根正弘氏による講演「ダントツの強みを磨け～企業と国の構造改革～」では、世界の変化は長い時間軸で判断していく必要があることや、東京一極集中でない地方の特色を生かした産学連携等について熱く語っていただきました。

また、東京大学教授の吉見俊哉氏の「大学の未来～21世紀、人生で3回大学に入る時代が来る～」と題する講演では、大学の歴史、日本における成り立ちと欧米諸外国との違いや大学の課題、また人生の可能性を広げる場としての大学の活用についてもお話いただきました。



坂根正弘コマツ相談役



パネルディスカッションの様子

大和ハウス工業の樋口武男会長と本学OGでシンクタンク・ソフィアバンク代表の藤沢久美さんとの特別対談では、樋口会長の経営哲学がその人柄とともに引き出され、多くの方が話に引き込まれていました。

最後に「成熟と創生の交わるころ、都市大阪の未来へ」と題した本学教員と藤沢久美さんとのパネルディスカッションでは、都市・大阪の課題を研究テーマにそれぞれの分野で活躍される5人の先生(長尾謙吉 経済学研究科教授、渡邊恭良 健康科学イノベーションセンター所長、中尾正喜 複合先端研究機構特命教授、鈴木洋太郎 経営学研究科教授、^{あきら}嘉名光市 工学研究科准教授)が登場し、都市の未来に向けて、自分たちの研究がどう展開されていくのかについて、意見交換が行われました。

第14回ホームカミングデーを開催しました!



西澤学長によるあいさつ

平成27年11月3日(火・祝)に「つながる力 2015 ～生まれかわった市大キャンパスにかえろう～」をテーマとした第14回ホームカミングデーが、田中記念館にて開催されました。

オープニングイベントでは、本学卒業生の松永桂子氏(創造都市研究科准教授)による「社会人大学院の役割—創造都市研究科の教育活動から—」という講演を、特別講演では本学卒業生の瀬戸山隆三氏(オリックス・バファローズ執行役員球団本部長)に「『宮内オリックス』の勝利に向けて」というタイトルで、長年関わってこられた野球界について興味深いお話を披露いただきました。



松永桂子創造都市研究科准教授



瀬戸山隆三オリックス・バファローズ執行役員球団本部長

このあと開催されましたウェルカムパーティーには、約170名の方のご参加がありました。懐かしい旧友との再会を喜ぶなど、話が尽きない様子でした。今回は、8月にリニューアルした田中記念館で初めて開催されたホームカミングデーということもあり、同窓生をはじめとした参加者の皆さまへはよいお披露目の機会となりました。

ホームカミングデーは、日頃大学に足を運んでいただく機会が少ない同窓生の方々や保護者の方々が、大学の関係者や学生と交流していただくために開催しています。サポーター支援室では、全学同窓会や教育後援会とともに、今後も大いに盛り上げてまいります。



ウェルカムパーティーの様子

先輩探訪!

あい ま さ き こ
相間 佐基子さん(昭和60年 法学部卒) 弁護士

大阪市立大学を卒業されて社会で活躍されている先輩の横顔をご紹介します。

今回は、豊中市にある女性弁護士3人の法律事務所で活躍されている相間佐基子さんです。お父さまは商科大学の最後の卒業生。そのためGHQの接收により在学中学舎が使えず、杉本町の校舎を使ったのは卒業式だけだったそうです。

相間さんご自身は、非常にエネルギッシュな方です。学生時代から“好奇心”が強く、大学に入って「知らないことを知ることの楽しさ」に目覚めたとおっしゃっています。



— これまでのご経歴とお仕事について、教えてください。

平成5年に弁護士登録して今年で23年目になります。このうち4年間はアメリカに在住し、ワシントンD.C.でロースクール修士課程を修了。その後横浜家裁で非常勤裁判官を経験し、現在は子どもの権利委員会、家事法制委員会に所属しています。

— モットーにされていることは?

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」です。母が私の母子手帳に書いてくれていた言葉です。

— 市大時代の思い出を何か教えてください。

無料法律相談所に所属して、実社会で起こっているさまざまな問題を見聞する機会を得たことや、他学部である生活科学部のニール研究会*に通って「新しい学校を作る会」で多くの人たちと出会い、学ぶことができたことなどです。*イギリスの教育家ニール(A.S.Neill, 1883-1973)

— 先輩として、市大生に一言メッセージをお願いします。

大学生は、一番自由に学んだり活動したり遊んだりできる時期だと思います。ぜひ大学生のうちに、机上の勉強だけでなく、さまざまな経験をして視野を広げていってほしいと思います。

特に自分の海外体験から、自分の考えをしっかりと持つことが大切だと思います。また、グローバル化の基本として自国と他国の文化や価値観の違いを理解して受容することが大切だと思うので、そのためにまず、自国をよく知ることが必要だと感じています。

— いま、一番力を注いでいることを教えてください。

10代後半の行き場を失った子どもたちの居場所を確保するためにNPO法人の子どもシェルター「ぬつく」の運営を、この4月より開始します。その準備のため、本業以外にも忙しくしています。

略歴 ■昭和60年 大阪市立大学 法学部卒
■平成 8年 アメリカ ワシントンD.C ジョージタウン大学 ロースクール修士課程修了
■平成18年 横浜家庭裁判所非常勤裁判官

大阪府児童虐待等危機介入援助チーム委員、大阪家庭裁判所家事調停委員、豊中市監査委員、大阪弁護士会子どもの権利委員会、家事法制委員会所属

大阪市立大学夢基金への
ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

詳しくは、 [大阪市立大学夢基金](#)

検索

*本学ホームページを
ご参照ください。

OCU INFORMATION

第3回 地域連携発表会

「～地域×大学 多様化する地域課題とつながりづくり～」を開催します

今年で3回目となる地域連携発表会では、多様化する地域課題への取組事例や連携のノウハウを5つのテーマに分けて紹介し、地域と大学のさらなるつながりづくりの可能性について議論を深めます。地域連携に関心のある方はもちろんのこと、これから取り組んでみようとお考えの方も、ぜひこの機会にご参加ください。

開催日時：2016年3月10日(木) 13時～16時30分

開催場所：大阪市立大学 杉本キャンパス 田中記念館 ホール

プログラム概要

◆連携事例の発表：以下の5つの連携事例について、本学教員が発表します。

文化・歴史	住吉区観光活性化の取り組み／天野景太(文学研究科 准教授)
まちづくり・商業活性化	日本橋筋商店街と連携した調査研究とその取り組み／長尾謙吉(経済学研究科 教授)
生涯学習・地域貢献	附属植物園の役割と新たな地域貢献の可能性／飯野盛利(理学部附属植物園長／理学研究科 教授)
博学連携	博学連携―「高校生のための博物館の日」の事例から／志賀向子(理学研究科 教授)
防災まちづくり	災害に負けないまちづくり／宮野道雄(理事兼副学長／地域連携センター所長)

◆テーマ別座談会：事例発表の各講師を囲み、質問や意見交換を行います。

◆学生ポスター発表：事例発表の前後に学生によるポスター発表を行い、優秀な発表者には表彰を行います。



参加申込みの詳細については、本学ホームページ(<http://www.osaka-cu.ac.jp/ja/event/2015/160310>)をご覧ください。

就職支援室からのお知らせ

今年度の就職活動状況を振り返って

今年度の就職活動を総括するならば「変化への不安と対応」ということになるでしょう。活動時期が変更になったことが大々的に取り上げられすぎたために、学生たちが必要以上の不安を抱えることとなりました。

就職活動において準備すること(考え方や対策)は、時期の早い遅いに関係なく、どの時代においても普遍的なものがあります。にもかかわらず、「短期決戦」「長期化」という言葉だけが独り歩きし、そこに対応することだけが最重要、との印象を与えてしまいました。

就職支援室では常々「自責化と論理化」をキーワードに将来を見据えた支援を行っています。なかなか就職が決まらない、就職できるか心配、等の悩みがあるかもしれません。

必ず未来はやってきます。「焦らず、怠らず」自分自身がやるべきことを見据えて、しっかりと前進していきましょう。我々も全力でサポートさせていただきます。

就職支援室長 岩川 和朗



詳細は決まり次第、全学ポータルサイト・本学ホームページ・就職支援室前の掲示等でお知らせしますので、随時ご確認ください。

いよいよ学内企業セミナースタート!!

ブース形式・予約不要・入退室自由

【日程】3月1日(火)～30日(水)、
4月6日(水)～8日(金)

【時間】12:00～17:00

【場所】杉本キャンパス 高原記念館

※3月7日(月)、11日(金)、22日(火)および土曜、
日曜、祝日は開催しません。

3月1日から始まる2017卒の採用広報活動に合わせて、学内でも企業セミナーを実施します。計21日間で480社が参加します。各企業の人事担当者から、業務内容や求める人材等の説明を聞き、今後の採用選考に必要な準備や自身の方向性を固める場として活用できる毎年大盛況のイベントです。

大阪市立大学広報誌

CITY
×
UNIVERSITY vol.20

発行：公立大学法人 大阪市立大学

企画・編集：法人運営本部 広報室

デザイン協力：desk

発行日：2016年2月

本誌に関するお問い合わせ・ご意見・ご感想は

大阪市立大学 法人運営本部 広報室

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

e-mail: t-koho@ado.osaka-cu.ac.jp

本誌に掲載の写真および原稿の無断転用を禁じます

グローバルな都市研究・教育拠点



大阪市立大学
OSAKA CITY UNIVERSITY

杉本キャンパス

商・経・法・文・理・工・生活科学 各学部・各大学院研究科・本部
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

阿倍野キャンパス

医学部・大学院医学研究科・大学院看護学研究科・医学部附属病院
〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3

梅田サテライト

大学院創造都市研究科・文化交流センター
〒530-0001 大阪市北区梅田1-2-2-600 大阪駅前第2ビル6階

<http://www.osaka-cu.ac.jp>